

平成26年 観光動態調査（1月～12月）

柳川市観光課

## 1. 概要

平成 26 年（1 月～12 月）の柳川市への観光客の入込客数は、平成 25 年の約 124 万 5 千人から約 1 万 5 千人増加し、約 125 万 9 千人だった。この数字は、合併後の最高の入込となっている。

月別にみると 3 月、4 月がピークであり、要因としては、気候もよくなり、「柳川雛祭り・さげもんめぐり」や「中山大藤まつり」といった柳川市を代表するイベントによる入込が多いと考えられる。

観光消費額は、入込客数の増加に伴い、平成 25 年の約 48 億 6 千万円から約 52 億 3 千万円と増加しており、1 人当たりの消費額も、平成 25 年の約 3,900 円から約 4,150 円と増加した。

宿泊客数は、平成 25 年の約 4 万 2 千人とほぼ同じ宿泊者数だったが、宿泊者の割合を見ると年々減少傾向にある。

観光客の交通手段は、乗用車利用者が約 54%、西鉄電車利用者が約 27%、大型バス利用者が約 19%の割合となっている。割合だけを見ると乗用車利用が全体の半数以上を占めており、個人観光客が多く占めている状況は変わらないが、大型バスの利用者を見ると、平成 25 年と比べて約 1 万 6 千人増加しており、団体客も増加傾向にあることがうかがえる。

川下りの利用客は、平成 25 年の約 34 万 3 千人から約 34 万 9 千人となり、約 6 千人の増加となっており、2 年連続で増加傾向にある。要因の一つとしては、外国人観光客の増加及び団体客の増加が考えられる。

市内の観光施設及び宿泊施設への聞き取りによると、平成 26 年 1 月から 3 月までは、消費税増税前の駆け込み需要で好調だったが、4 月に消費税が 8%に増税されたことで、7 月の夏休み前までは落ち込んだ。しかし、夏休みから秋のシーズンには持ち直した。また、外国人観光客の増加は顕著で、観光案内所での問い合わせ件数を見ても約 4 千件と平成 25 年と比較しても千件増加している。

福岡県の調査による入込状況を見ると NHK 大河ドラマ「軍師官兵衛」の放送により、平成 25 年と比較して、約 133 万人の増加となっており、その内、宿泊者数は約 51 万人となっている。

平成 26 年の外国人観光客を見ると全国も過去最高の 1,341 万人を記録し、九州でも前年比 33.2%増の 167 万 5 千人が訪れている。また、福岡県を見ると、福岡空港、博多港から入国した外国人が 3 年連続で過去最高の 120 万人を突破し、前年比約 33%の伸びがあった。

本市でも約 9 万人が訪れ、平成 25 年と比べて 36%の増となっており、外国人観光客の伸びが顕著になっている。

## 2. 観光入込客数

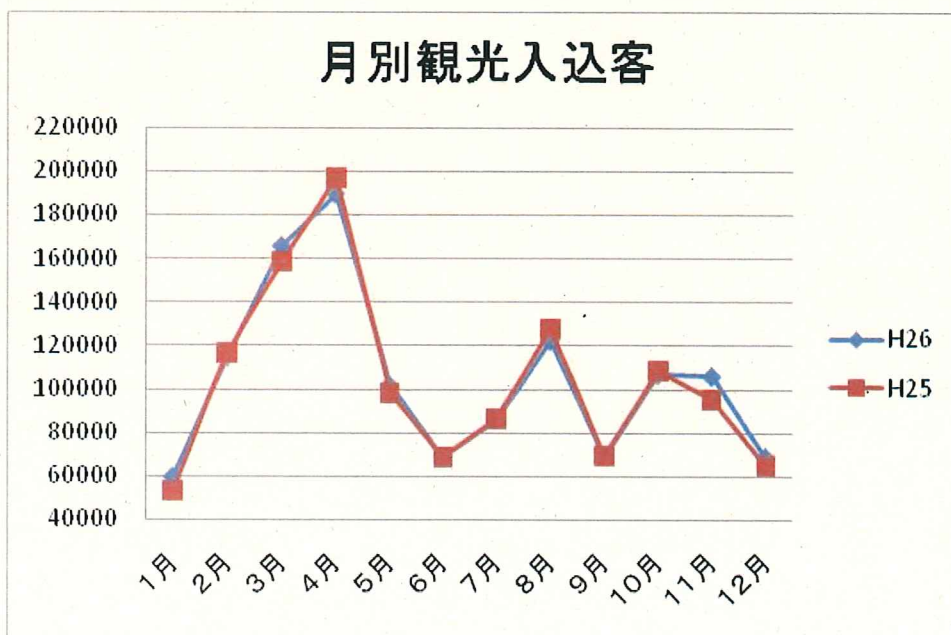
### (1) 観光入込客の推移

観光客の入込客数は、125万9千人で、平成25年と比較すると1万5千人の増加となっている。主な増加の要因は、各イベントの市外からのお客様の割合が高まったことや外国人観光客の増加が考えられる。



### (2) 月別観光入込客数

入込客数を月別にみると、春先の3月、4月がピークであり、これは、2月から開催される「さげもんめぐり」や「中山大藤まつり」のイベントの集客が大きいと考えられる。傾向的に例年同様の推移が見られる。



### 3. 観光消費額

#### (1) 観光消費額の推移

推計消費額は、入込客数の増加に伴い約 52 億 3 千万円で H25 と比較して、約 7 億円の増加となっており、1人当たりの消費額は約 4,150 円で平成 25 年と比較して約 250 円増加した。

飲食費及びお土産費の増加が増えたことが大きな要因と考えられる。

最も高い消費額は食事代で、約 22 億 3 千万円。次に、お土産代の 18 億円。

また、宿泊及び川下りが約 4 億 8 千万円となっている。





## 4. 宿泊客数

### (1) 宿泊客数の推移

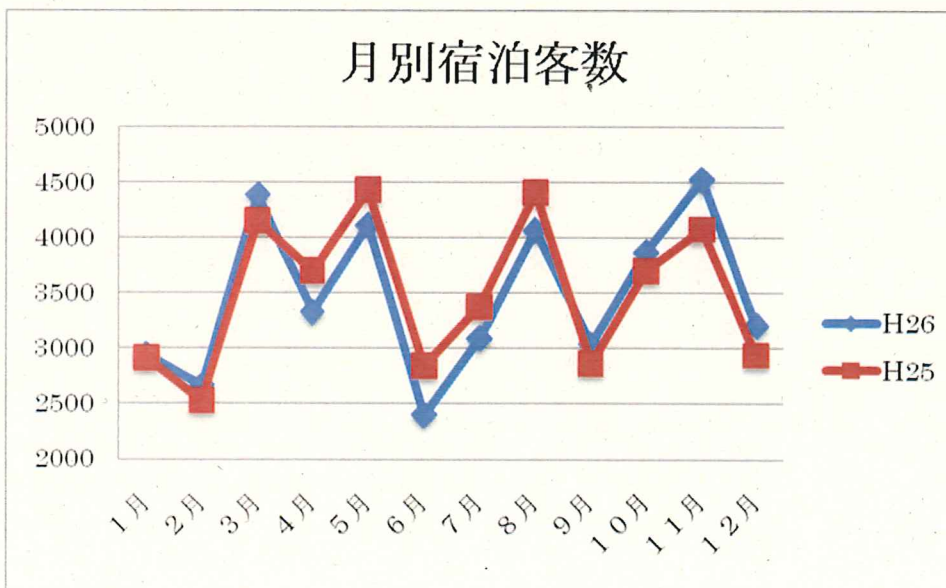
宿泊客は、約4万2千人であり、平成25年とほぼ同じ宿泊者数だった。

また、観光入込客数に占める宿泊者数の割合は、約3.3%であり、日帰り・通過型の観光客が大半を占めている状況がうかがえる。



### (2) 宿泊客数と観光入込客（月別）

平成26年の月別宿泊客数では、3月と11月がピークとなっている。

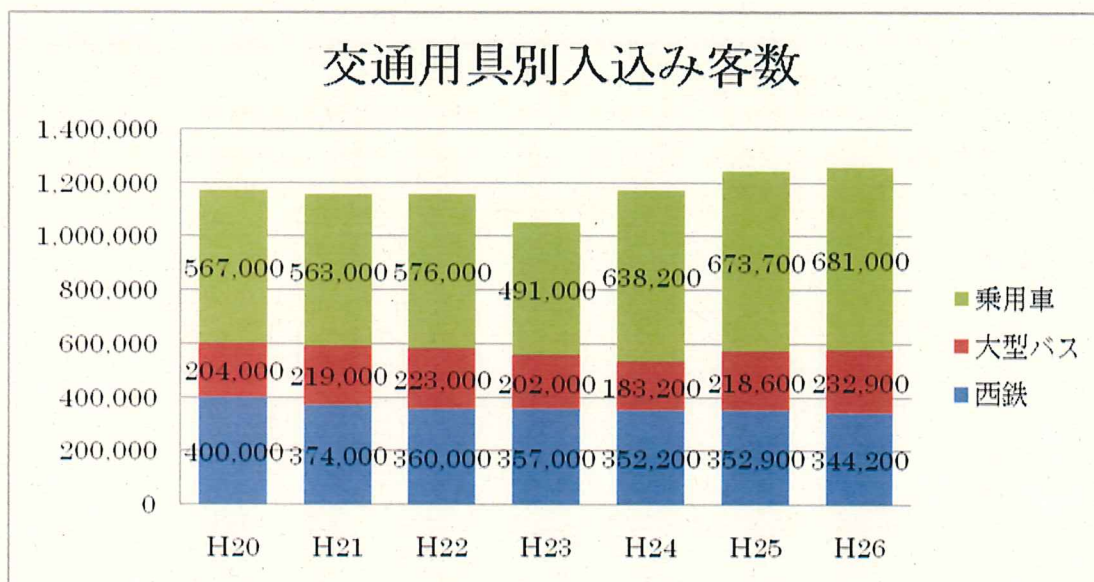


## 5. 個別の交通機関

### (1) 交通用具別入込客数の推移

交通手段（大型バス・西鉄電車・乗用車）別に観光入込客数を推定すると、乗用車利用者が全体の54%を占め、西鉄電車利用者が約27%、大型バス利用者約19%となっている。

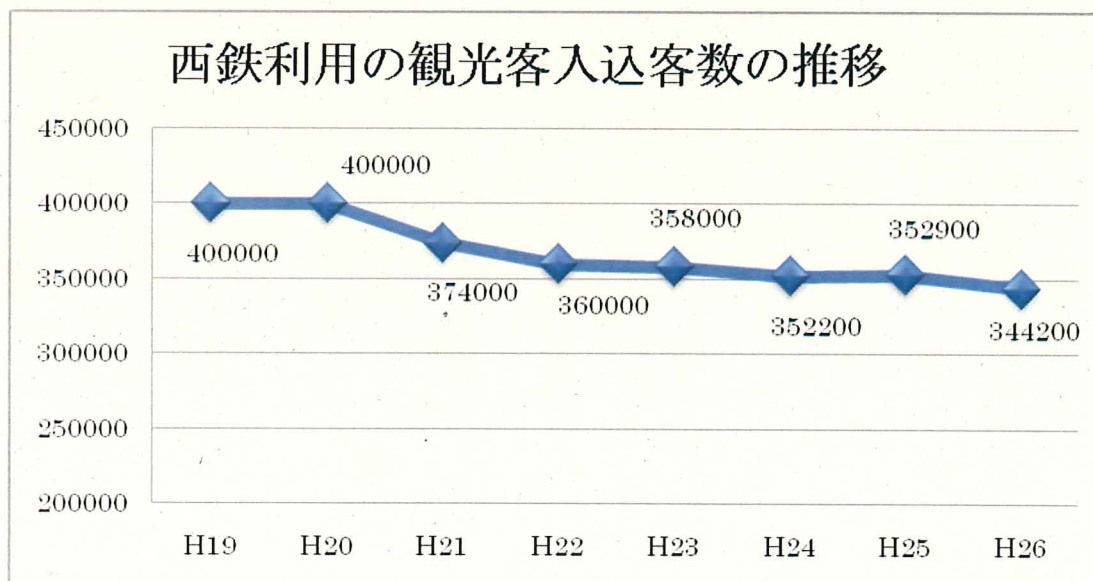
このことから、乗用車や西鉄電車で移動する小グループ・家族で旅行する個人型の観光が多くを占めていることがわかる。



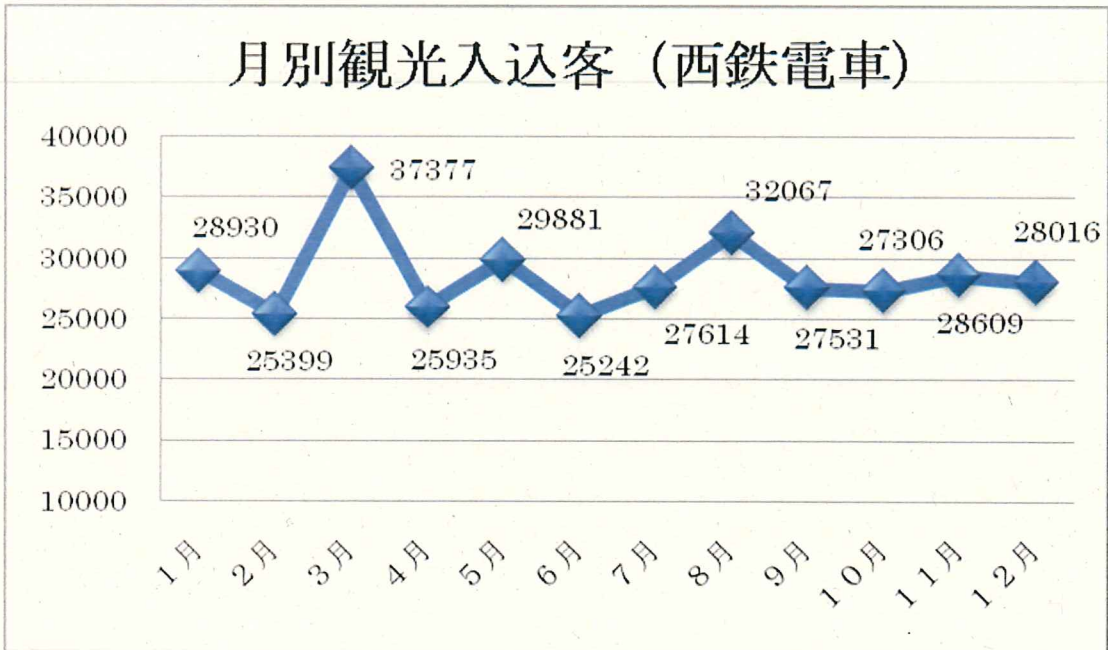
### (2) 西鉄利用者（柳川駅）

西鉄柳川駅定期以外の乗降客数は、約190万4千人であり、平成25年と比べて約5万人の減少となっている。その中で、西鉄を利用する観光客入込みは、34万4千人と推計され、全体の観光客数の内、約27%と推計される。

西鉄利用の観光客の内、西鉄が販売している「柳川特盛きっぷ」や「湯ったり柳川きっぷ」といった企画きっぷを利用して訪問される観光客も見られる。



### 月別観光入込客（西鉄電車）



### (3) 大型バス

主要駐車場の大型バスの台数状況を見ると、延べ約4千4百台の駐車があり、平成25年と比較して100台ほど増加している。

大型バスを利用する入込み客数は、約23万5千人で全体の19%を占めている。

### 月別観光入込客（大型バス）

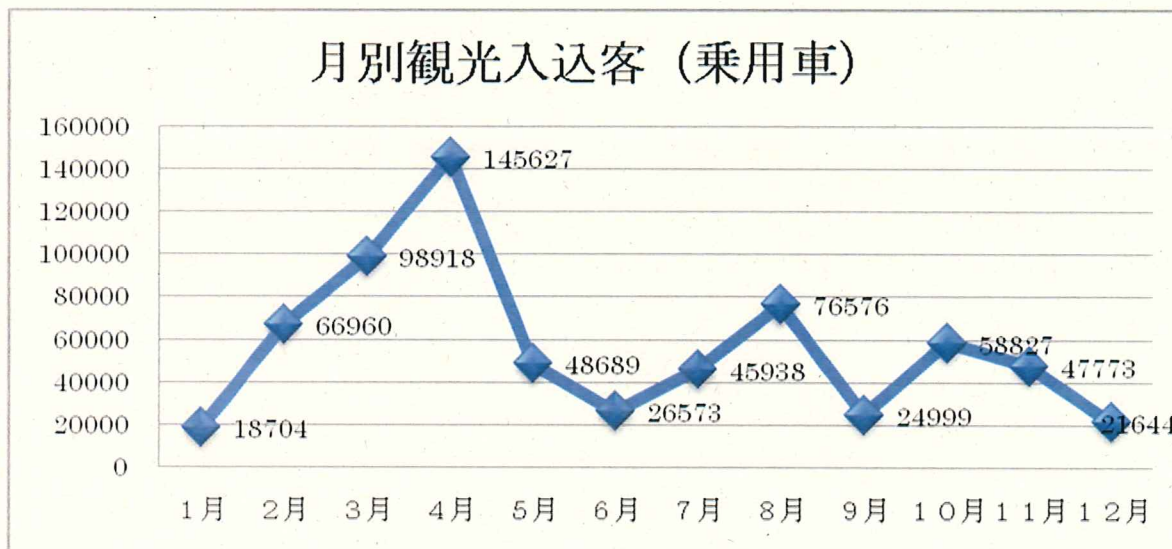




#### (4) 乗用車

イベント駐車場利用を除いた市営駐車場などの主要駐車場の駐車状況を見ると、約 1 万 9 千 5 百台であり、平成 25 年と比較して約千台の増加だった。

マイクロバスを含めた乗用車を利用する観光入込客は、68 万 1 千人で、全体の 54%を占めている。

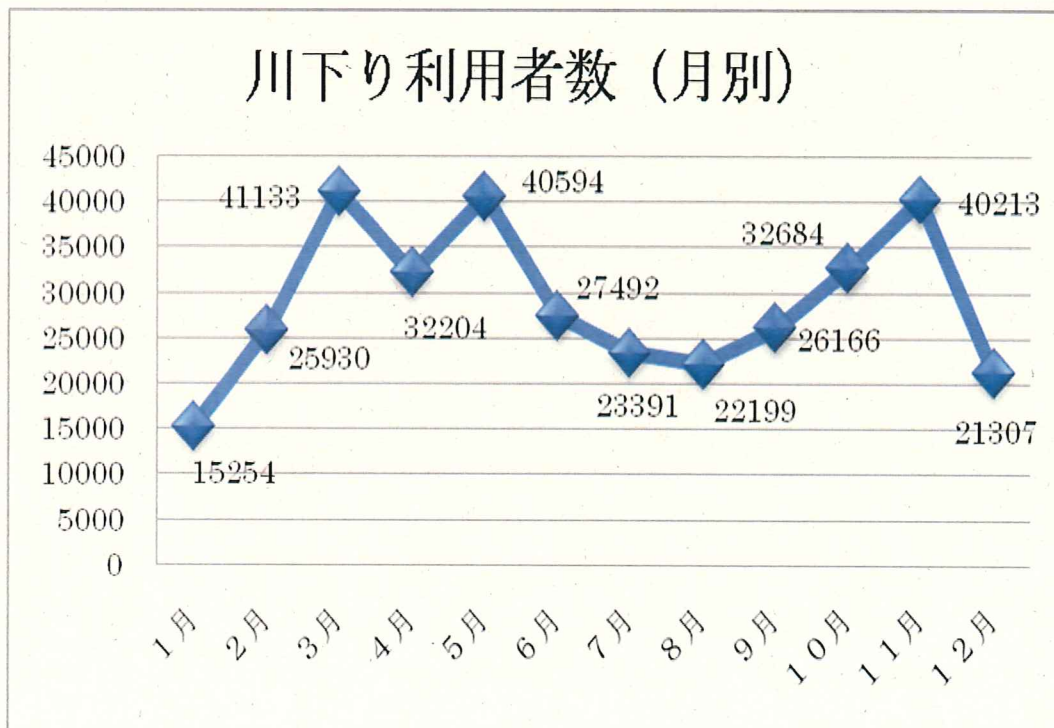




## 6. 主な観光施設の入込客数

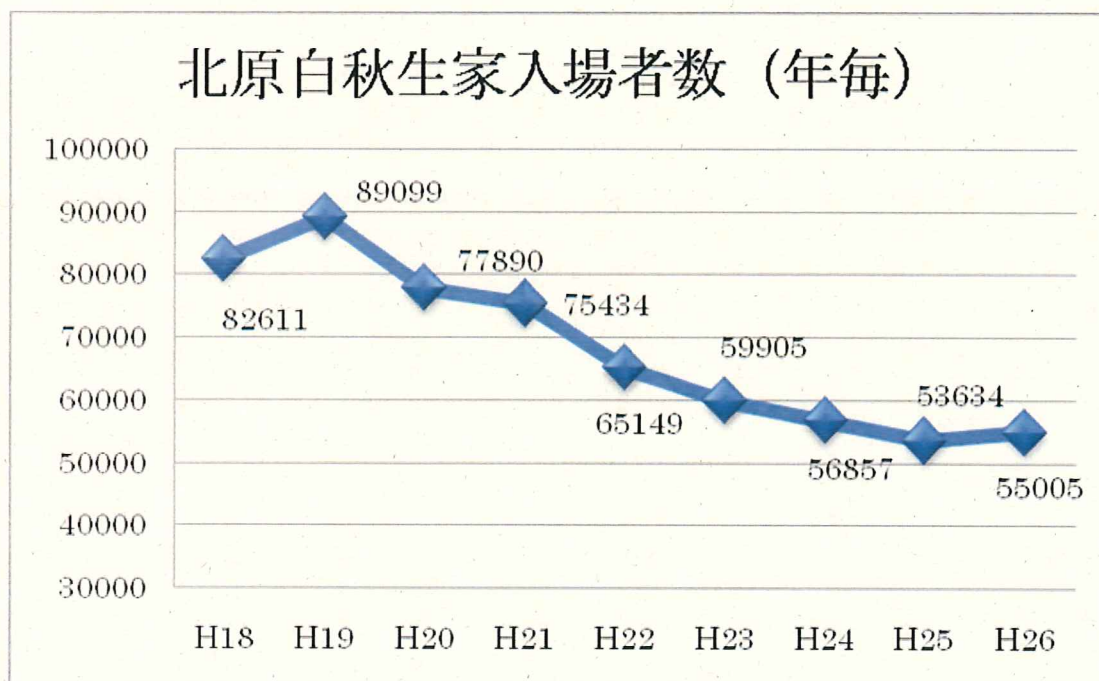
### (1) 川下り

川下り利用者については、約35万人で、平成25年と比べると約6千人増加となった。平成23年以降減少が続いていたが、平成24年から増加傾向に転じた。



## (2) 北原白秋生家

北原白秋生家の入場者数は、約5万5千人であり、合併後は平成19年以降減少傾向にあったが、7年ぶりに増加した。



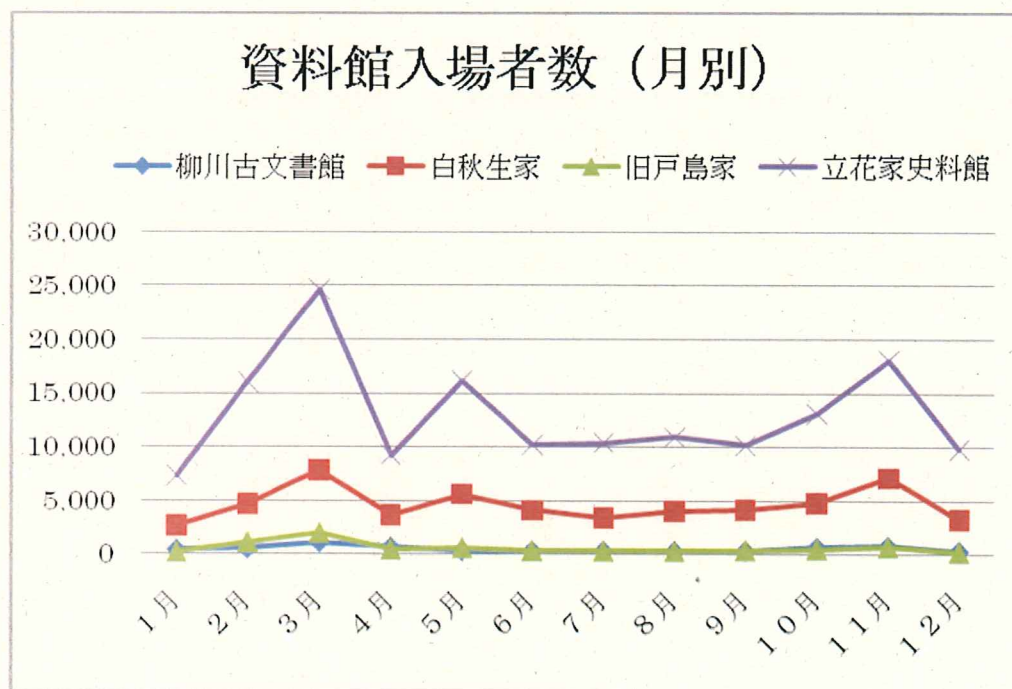
## (3) 立花家史料館

立花家史料館の入場者数は、約15万6千人で平成25年と比べて約7千人の増加となっている。



#### (4) 資料館入場者数（月別）

資料館別に入場者数をみると、立花家史料館が最も入場者数が多く、次いで白秋生家、旧戸島家住宅、柳川古文書館の順となっている。北原白秋生家へ来館された方は、無料で旧戸島家住宅に入場できるが、年間入場者数は北原白秋生家 5 万 5 千人に対して旧戸島家住宅が 7 千人となっている。



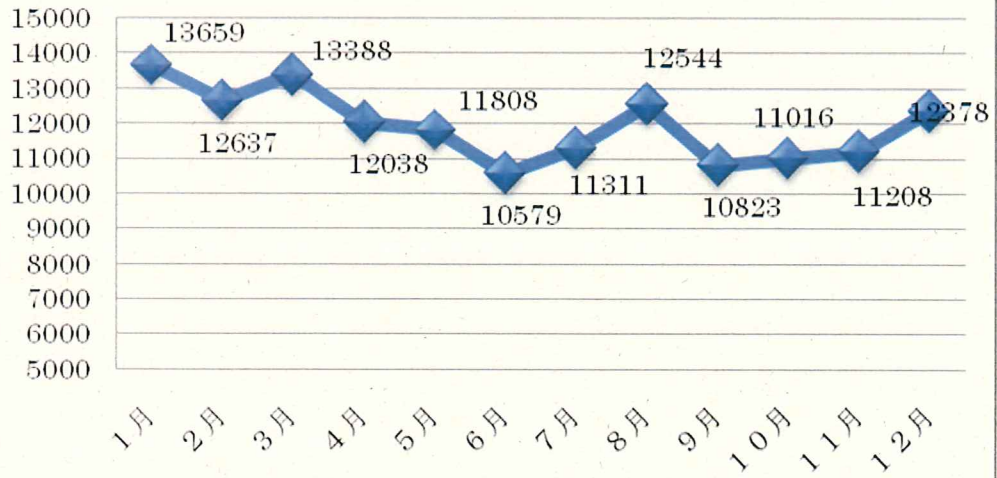
#### (5) 日帰り温泉

日帰り温泉客は、約 14 万 3 千人であり、平成 25 年と比べると約 1 万 2 千人の減となっている。





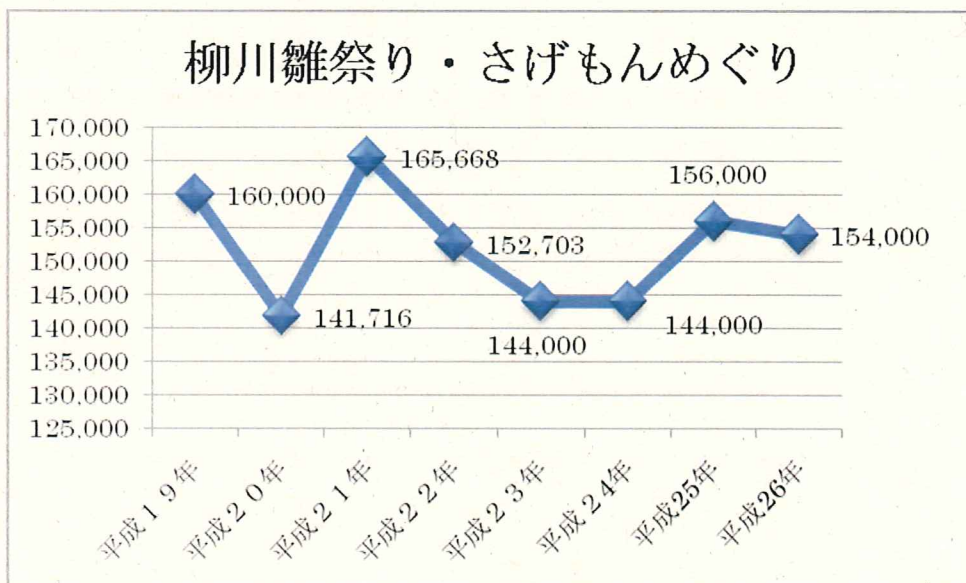
# 日帰り温泉客 (月毎)



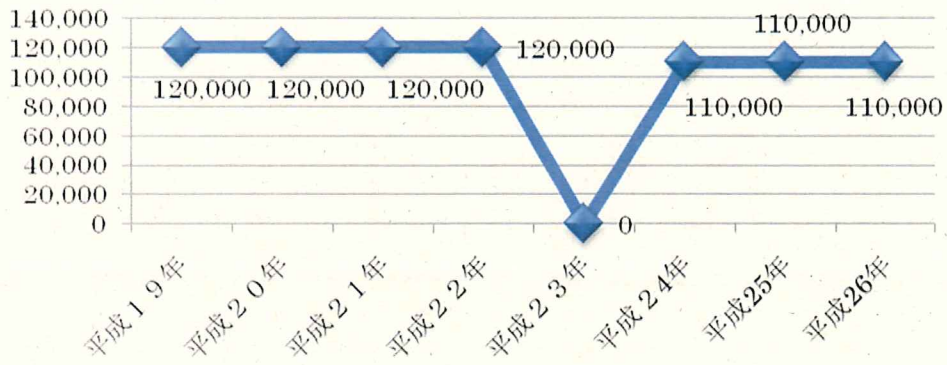
## 7. 主なイベントの入込客数

主なイベントの入込客数は主催者発表によると、「柳川雛祭り・さげもんめぐり」約15万4千人、「中山大藤まつり」約16万人となっている。

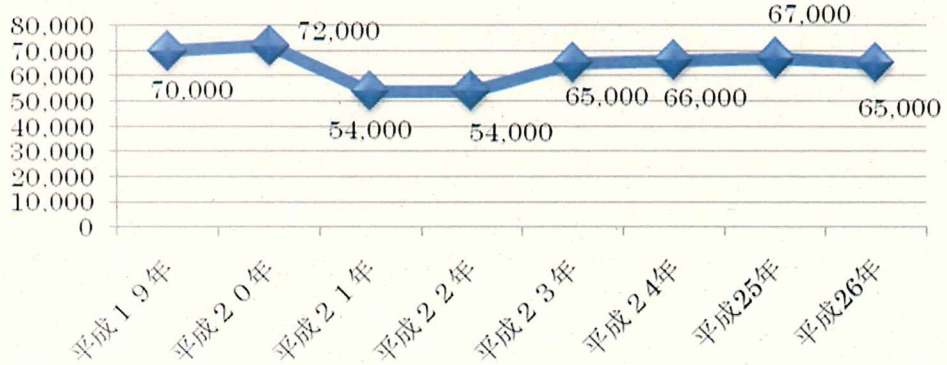
また、各種イベント「柳川雛祭り・さげもんめぐり」、「中山大藤まつり」、「ひまわり園」、「よかもん祭り」は聞き取り調査結果からも、市外からのお客様の割合が高まっている。駐車場で県外・福岡ナンバーの車も多くみられた。



### 有明海花火フェスタ



### 柳川よかもんまつり





## 8. 外国人観光客

外国人観光客は、約9万人で、平成25年と比べて約2万4千人の増加だった。国別にみると台湾、韓国、香港などのアジアからの観光客が大半を占めている。

全国の外国人観光客を見ても過去最高の1,341万人を記録し、九州でも前年比33.2%増の167万5千人が訪れている。国別にみると、韓国が約85万人、台湾が21万人、中国が15万人となっている。

また、福岡空港、博多港から入国した外国人が3年連続で過去最高の120万人を突破し、前年比約33%の伸びがあった。国別では、中国、韓国、香港、台湾、タイの増加数が大きく、5地域で27万人以上増加している。

